

経営比較分析表（平成29年度決算）

熊本県水俣市 国保水俣市立総合医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	18	対象	ド透訓	救 臨 感 災 地 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
25,102	29,327	非該当	10：1	

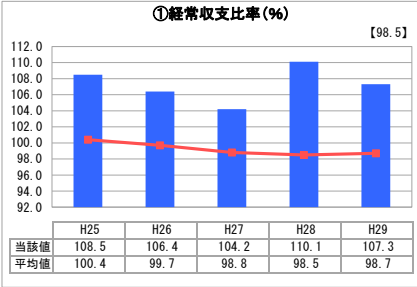
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

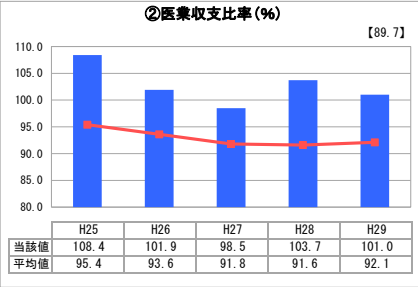
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
397	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	401
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
351	-	351

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

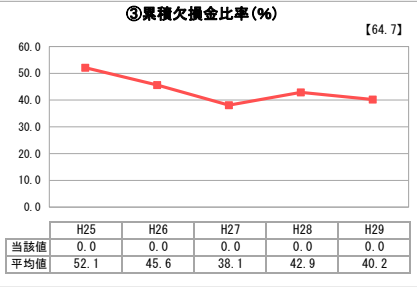
1. 経営の健全性・効率性



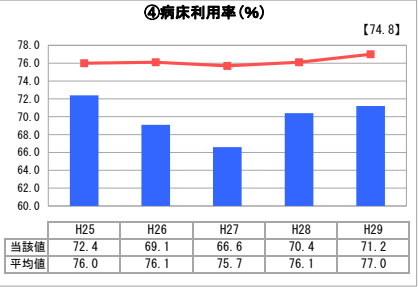
「経常損益」



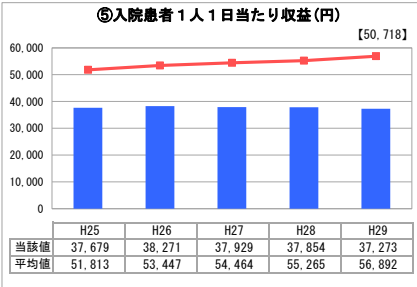
「医業損益」



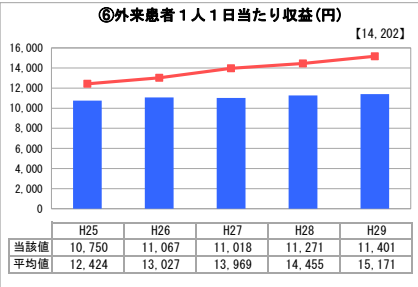
「累積欠損」



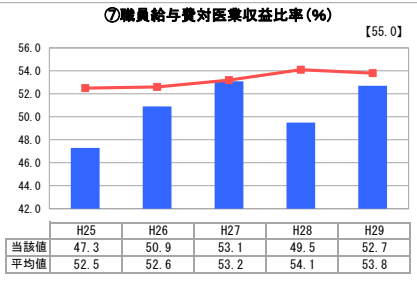
「施設の効率性」



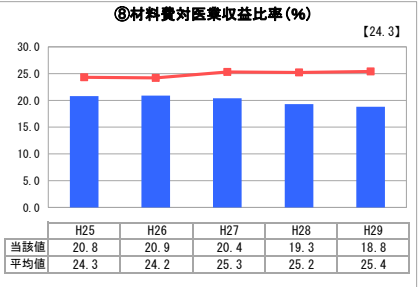
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

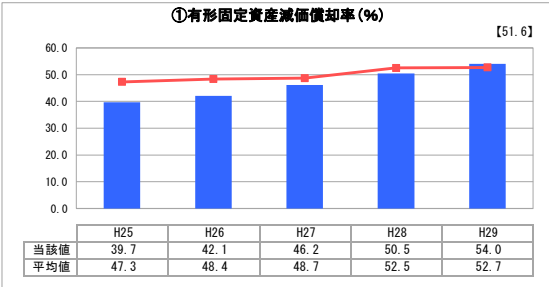


「費用の効率性①」

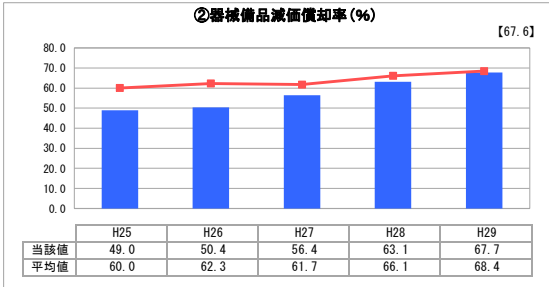


「費用の効率性②」

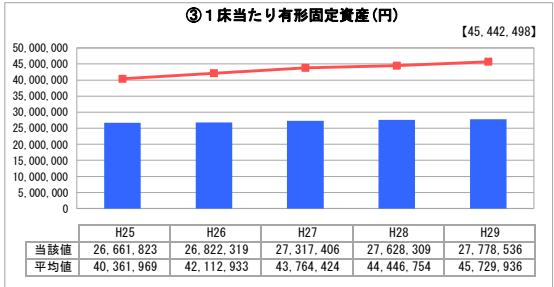
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

①過疎地域自立促進特別措置法に規定する過疎地域に立地で一般医療の提供を行っている。また中山間地域にへき地診療所（附属久木野診療所）も運営している。
②24時間365日の救急医療、小児・周産期医療の提供、災害拠点病院としての運営を行っている。
③高額医療機器の整備を計画的に行い高度医療の提供に努めている。
④地域医療支援病院の指定があり、地域の医療従事者の教育研修の拠点としての役割がある。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び医業収支比率共に100%を越え累積欠損金も発生していないため、現状、経営状況は良好である。
病床利用率が平均値よりも低いものの、稼働病床に対する病床利用率では8割を越え（H29：81.4%）、医業収支比率も100%を超えているため、病床数に相応する診療収入は得られていると考えられる。
費用の大部分を占める給与費及び材料費は共に平均値を下回っており適正にコントロールできている。
患者1人1日当たりの収益（診療単価）は平均値よりも下回っているため、今後診療単価を増やす取組みが課題である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産及び器械備品の減価償却率は年々上昇傾向にあり、施設、設備ともに老朽化が進んでいる状況にある。そのため、引き続き経営状況を見ながら計画的な更新投資が必要と考えられる。

全体総括

現在のところ概ね良好な経営ができていますが、地域医療構想による推計によると医療圏人口の減少は避けられない状況にある。このような外部環境から医業収益の増は見込みにくい状況にあるため、今後は医業収益に対する利益率向上の取組みが必要である。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。